

記入例

第58回（令和2年度）北海道優良米生産出荷共励会 推薦調書
「直播栽培部門」

生産グループの部

推薦者 ○○地区米麦改良協会 会長理事 ○○ ○夫 印

調書の内容は誤りのないことを確認した。

振興局 農業改良普及センター 所長 ○○ ○平 印

検査（出荷）実績を証明する。

農産物検査員 北海道農産協会所属
JA○○農産物検査員 ○○○雄 印

1 対象者 (ふりがな) まるまるちょうすいとうちよくはけんきゅうかい
生産グループの名称 ○○町水稻直播研究会
(ふりがな) まるやままるじ・ほっかいどうまるまるぐんまるまるちょう1ばん23ごう
代表者氏名・住所 ○山○次・北海道○○郡○○町○○1番23号

2 経営状況 耕地面積 42.6 ha (注) 田・畑などの合計面積

年次 項目	平成30年	令和元年	令和2年	3カ年の平均
水稻作付面積	36.4ha (14.2)	38.4ha (10.4)	34.4ha (2.9)	36.4ha (9.2)

(構成する生産者の合計面積を記入)

注) 移植栽培を含む、水稻作付全面積。()は移植栽培面積。

3 構成生産者の状況

	平成30年	令和元年	令和2年
戸数	6	7	7
従事者数	10	11	11

4 耕種概要

(1)直播区分(湛水直播・乾田直播の別)および直播作付品種(単位:h a)

区分	年次	平成30年	令和元年	令和2年
	品種名(用途)			
湛水直播				
	合計			
乾田直播	大地の星(業務)	22.2	28.0	31.5
	合計	22.2	28.0	31.5
直播合計		22.2	28.0	31.5
(備考)				

(構成する生産者の合計値を記入)

注)・品種名の後の用途は、一般または業務とする。

(2) 融雪促進、土作り等 (当該グループの代表事例を記入)

年次		平成30年	令和元年	令和2年
融雪促進または 土壌改良材(kg/10a)	資材名	ケイカル	ケイカル	ケイカル
	施用量	100kg	100kg	100kg
透排水性改善		心土破碎	心土破碎	心土破碎
稲わらの処理法	前年産	春鋤込	10%	%
	当年産	搬出	%	100%
		秋鋤込	90%	%
堆厩肥施用量(kg/10a)		1,000kg	1,000kg	1,000kg
(備考) 心土破碎とあわせて、毎年溝切りも実施				

注) 「稲わらの処理法」の欄の%は、直播面積に対する割合。

土壌改良材については、具体的製品名を書く。

(3) 施肥量等 (当該グループの代表事例を記入)

年次		平成30年			令和元年			令和2年		
項目		N	P	K	N	P	K	N	P	K
基肥 (kg/10a)	全層	8.0	7.3	7.3	8.0	7.3	7.3	8.0	7.3	7.3
	表層									
	側条									
追肥	kg/10a	3.6			3.6			3.6		
	期日	6.25			6.24			6.23		
(備考) 3カ年とも倒伏なし										

注) 肥料銘柄(肥効調節型等)、倒伏程度を備考欄に記載する。

(4) 出芽促進技術(種子予措・落水期間等) 苗立ち確保技術、播種時期、播種量等

(当該グループの代表事例を記入)

年次		平成30年	令和元年	令和2年
項目				
播種方法		乾田ドリル播種	乾田ドリル播種	乾田ドリル播種
出芽方法		落水出芽	落水出芽	落水出芽
種子予措	種子消毒剤	なし	なし	なし
	カルバー粉衣% (乾糲比)	なし %	なし %	なし %
	その他	なし	なし	なし
播種時期		5月 14日～ 月 日	5月 13日～ 月 日	5月 12日～ 月 日
播種量(乾糲換算重)		12 kg/10a	12 kg/10a	12 kg/10a
(備考) 播種後 2日間程度入水後、落水。 落水期間 H30 17日間(出芽5/25) R1: 出芽5/27頃までに土壌水分に合わせて数回走水を行った R2: 出芽5/22頃までに、土壌水分に合わせて走水、水持ちの良いほ場は15日間落水				

注) 種子予措の該当しない項目は、「なし」と記載する。落水期間(または走り水月日)を備考に記載する。

(圃場環境の整備)

- ・均平施工 有 (R1年) ・ 無
- ・田畑輪換又は移植栽培との交換 有 (R2年) ・ 無
- ・漏水対策 有 (毎年) ・ 無

(5) 除草剤・生育調節剤等 (当該グループの代表事例を記入)

除草剤名等	処理時期	効果	残草程度・種類等
①ラウンドアップマックスロード	5月30日	大	少
②ラウンドアップマックスロード	6月5日	大	微
③			
④			
(備考)			

(6) 乾燥方式 (構成生産者の取組比率を記入)

- ・ 連続乾燥 (年～ 年)
- ・ 一時乾燥→貯留→仕上げ乾燥 (28年～ 令和2年) 【90%】
- ・ 遠赤外線乾燥 (28年～ 令和2年) 【10%】
- ・ 除湿乾燥 (年～ 年)

5. 産米出荷成績 (構成する生産者の合計値を記入)

項目	年次	平成30年	令和元年	令和2年	3カ年の合計
	総出荷数量 ①		2,500俵	2,700俵	2,300俵
製品出荷数量 ②		2,400俵	2,600俵	2,200俵	7,200俵
一等米数量 ③		2,400俵	2,600俵	2,200俵	7,200俵
一等米比率 ③/②		100%	100%	100%	100%

注) 俵数は60kgに換算のこと。

- ①の数量は直播栽培面積からのすべての出荷数量(規格外・加工用米等を含む)を記入し
- ②③の数量は、加工用米及び規格外米、新規需要米・政府備蓄米を除く出荷数量、一等米数量とする。

6. 病虫害防除の実施状況

- (1) 病虫害の発生状況を的確に把握し、発生対応型防除に努めている。
- (2) いもち病に関しては、プラスチックの活用およびほ場の見回りを実施。
- (3) カメムシに関しては、すくい取りによるモニタリングを利用。

7. 直播栽培に当たっての創意工夫のある取り組み等(低たんぱく米生産等の取り組みも含む、具体的に記載して下さい。)

(枠の範囲にこだわらず、次ページにまたがっても良い)

- (1) 田畑輪換による還元田の窒素発現を利用して、直播栽培の収量向上に努めている。
- (2) 深根性の作物(デントコーン等)を輪作に取り入れて耕盤層を破碎し、土壌物理性の改善に結びつけている。
- (3) 残渣物の鋤込みにより、地力維持に努めている。

8. 直播栽培に係わる経営的な視点(具体的に記載して下さい。)

- (1) 機械の共同購入・共同利用に取り組み・・・。
 - (2) ローテーション作物の共同集荷により・・・。
 - (3) 耕畜連携の取り組みにより・・・。
- ・その他、別記参照

9. 添付書類

(1) 令和2年産米栽培履歴

以上

上記内容について、第58回（令和2年度）北海道優良米生産出荷共励会実施要領に基づき、一般社団法人北海道米麦改良協会へ提出する事を認めます。

入賞発表、審査概要報告書、会報、ホームページ等で優良事例として生産者の氏名他推薦調書の内容を広報することを認めます。

令和2年〇〇月 〇日

生産者グループ名称 〇〇町クリーン米生産組合

代表者住所 北海道〇〇市〇〇町1番23号

代表者氏名 〇山 〇次 印

(別記)

経営の観点の記入例

1. コスト低減の取り組み

(1) 省資材

- ・JAおよび普及センター指導の下で毎年ほ場毎に行っている土壌診断結果に基づき、肥料銘柄の選定、施肥量の調整を実施して、適正施肥・肥料コスト低減に努めている。
- ・有機質肥料を使用し化学肥料由来の窒素を10aあたり5kg以下に抑え、農薬の成分回数を6成分以内にするなど高度な栽培技術を行って生産している。

(2) 共同利用その他

- ・機械・倉庫設備の償却資産の延長を図り、機械修理等については自ら実施し必要最小限の修理コストでの機械管理を行っている。
- ・低コスト生産を目的として、乾燥調製施設、コンバイン、ビーグル等の共同利用が各地区で行われている。乾燥調製においては、4施設あり、11戸1法人が共同利用している。

2. 適期作業、適期防除の取組

- ・JAや普及センターから随時発信される営農技術情報を活用して、適期作業に努めている。
- ・病虫害防除では発生対応型防除を心がけ、適期防除を実践し、環境等の配慮から追加防除をしないよう努力している。

3. 有利販売等

- ・JA施設で均質化された特別栽培米「ゆめぴりか」は、実需より高い評価を受けている。特別栽培米「ゆめぴりか」は、一般米より〇割程度高い単価で取引されていることから、農家の所得向上や生産意欲を高めている。

- ・特別栽培に取組み始め、全量契約栽培であり有利販売につながっている。